

## 日常診療で得られた肝生検組織を用いた非アルコール性脂肪性 肝疾患 (NAFLD) における代謝異常の評価

非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) は近年増加傾向にあり、日本では成人の 20-30% にも達すると言われております。その一部が肝硬変や肝がんへ進展することがわかっていますが、その病態や治療法についてはまだまだ不明な点が多いです。

この臨床研究は非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) 患者さんの肝組織を用いてその病態を調査することを目的としています。この研究により非アルコール性脂肪性肝疾患の病態が解明されると、よりよい治療法の開発につながる可能性があります。福岡県、大分県の 18 病院で約 300 名の患者さんのご協力をいただく予定です。当院では約 50 名の患者さんにご協力いただく予定です。

本研究は国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会（臨床研究の実施または継続に、倫理的観点及び科学的観点から、及び審議する委員会）においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。